

# 一、有為会の誕生

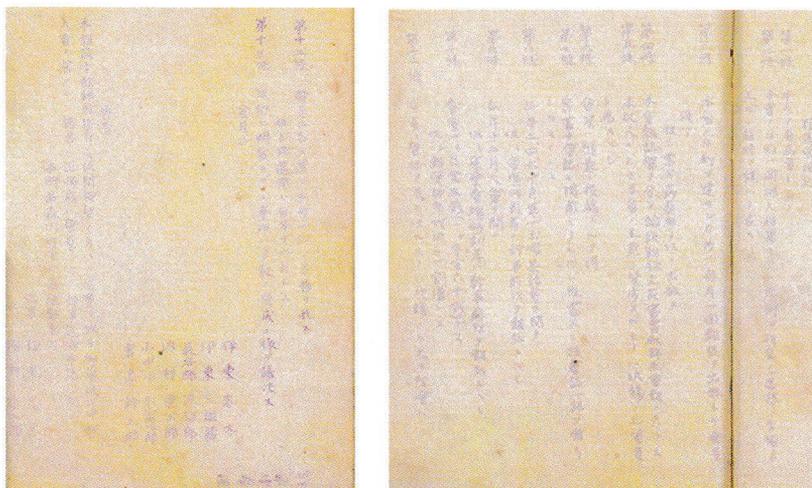
有為会の発足は、今から 130 年前の明治 22 年 (1889) の冬で、伊東忠太や宮島幹之助などの在京学生 6 名によって設立されました。その目的は、幅広い同郷人の団体を設立し、郷土愛を土台に、相互の親睦と切磋琢磨、共存共栄をはかることでした。

設立の際の中心人物は、当時、帝国大学工科大学に在学中の伊東忠太（後に建築家として大成）。で、忠太の日記「うきよの旅」（現在は日本建築学会で所蔵）の中に当初の動きが詳しく記されています。

11 月 23 日（かんなめさい神嘗祭）の日記には、忠太の下宿先に宮島等が集まり、会則を検討。「会ノ目的ハ互ニ思想を交換シ精神ノ発達ヲ謀ルコトニシテ、会ノ名ヲ有為会トシ、余（忠太）ハ投票ニヨリテ会長トナリタリ」と記されています。この 11 月 23 日を有為会創立日としています。

12 月 14 日には神田で開会式を開催（6 名参加）、12 月中にこんにやく蒟蒻版による『有為会雑誌』第 1 号（首号）を発行しています。その会則第 2 条には、「本会ノ目的は、同郷人相集リ互ニ學術を研究シ思想ヲ交換シ、並ビニ親睦ヲ謀ルニ在リ」と明記されています。

翌 23 年 1 月 18 日にはほんごうもとふじちょう本郷元富士町で臨時会を開催、参会者は 36 名となり、幹事 2 名（伊東忠太・内村達次郎）と評議員 5 名を置くことを議決しています。会員勧誘は急速に進み、23 年末の会員名簿では青壮年の会員 429 名が集う全国的な置賜同郷人の親睦団体となりました。



『有為会雑誌』首号の会則部分

こんにやく蒟蒻版印刷で薄れてきた誌面。  
会員として伊東忠太等 6 名の名が記載されている。